

## [成果情報名]8月高需要期出荷に適した施設夏秋小ギク品種

[要約]施設栽培において夏秋小ギク「精はぎの」「精しずえ」「精かのか」「精はんな」は6月10日に消灯すると8月の高需要期に高い採花率となり、到花日数の年次変動幅も小さいことから、計画出荷に適した品種である。

[キーワード]施設栽培、夏秋小ギク、品種選定、高温開花性

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330

[区分]花き

[分類]普及

[作成年度]2018年度

## [背景・ねらい]

本県には全国的にも数少ない施設小ギクの産地がある。施設で栽培される小ギクは露地栽培に比べて草姿が良く秀品率も高いため、市場からの高い引き合いがある。しかしながら、施設内は露地に比べて気温が高いため花芽分化期以降の高温により開花遅延を起しやすく、スポット的な8月高需要期に向けた計画出荷が難しい現状がある。

本センターでは昨年度、施設条件下においても到花日数の変化が少ない品種として「精はぎの」「精しずえ」「精かのか」を選定していた(成果情報・指導、2017)。また、これら品種は6月10日に消灯することで高需要期に高い採花率となることがわかった。

そこで今年度は、これら品種および現地で導入されている他品種について6月10日に消灯したときの到花日数の年次変動を調査し、施設栽培においても高温開花性の高い、8月高需要期出荷に適した品種を選定する。

## [成果の内容・特徴]

1. 「精はぎの」「精しずえ」「精かのか」「精はんな」は6月10日に消灯すると8月高需要期にあたる基準収穫期間の採花率は95~100%に達する。また、各品種の到花日数の年次変動幅は3日または4日である(表1)。
2. 「精ちぐさ」は6月10日に消灯すると到花日数は45または46日で年次変動幅は1日と非常に変化が小さいが、基準収穫期間の採花率は30%である(表1)。

## [成果の活用面・留意点]

1. 試験施設の花芽分化期(6月中~7月上旬)の夜間平均気温は、2017年が23.4℃、2018年が22.7であった。また、花芽発達期(7月中~下旬)夜間平均気温は、2017年が26.0℃、2018年は26.5℃であり、高温による開花遅延を起しやすいとされる25℃をいずれも超えた。
2. 「精ちぐさ」は到花日数の変動幅が非常に少ないことから、消灯日を5日程度遅らせることで高需要期への計画出荷に適した品種となる。

## [耕種概要]

供試品種：購入穂 「精はぎの」「精しずえ」「精かのか」「精はんな」「精ちぐさ」(イノチオ精興園株式会社)

年次 (年)	挿し芽 (月/日)	定植 (月/日)	摘心 (月/日)	整枝 (月/日)	消灯 (月/日)
2017	4/18	5/2	5/9	5/26	6/10
2018	4/18	5/1	5/7	5/23	6/10

定植場所：センター内 AP ハウス 施肥 N : P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> : K = 10 : 10 : 10kg/10a

定植直後から消灯日までは蛍光球(BIOTECHLIGHT 23W)にて5時間の暗期中断(23:00~4:00)

[具体的データ]

表 1 6月10日消灯における平均収穫日、到花日数および切り花品質の年次比較  
(2017年、2018年)

品種名 (花色)	年次 (年)	発蕾日 <sup>z</sup> (月/日)	収穫日 (月/日)	到花 日数 (日)	基準収穫期間 の採花率 <sup>y</sup> (%)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	節数 (節)	80cm 調製重(g)	FF <sup>x</sup>
精はぎの (黄)	2017	6/30	8/5±1.7	56	100	106.1	84.0	47.1	58.3	1.0
	2018	6/29	8/2±1.2	53	100	102.1	81.5	46.2	56.6	1.0
精しずえ (白)	2017	6/28	8/3±1.9	54	100	96.5	67.2	48.9	50.3	1.0
	2018	6/27	7/30±2.3	50	100	91.9	62.4	46.5	48.7	1.1
精かのか (白)	2017	6/30	8/5±2.4	56	100	118.6	68.0	53.5	44.8	1.2
	2018	6/29	8/2±0.5	53	100	109.0	58.3	49.5	38.0	1.8
精はんな (赤)	2017	7/1	8/4±2.8	55	95	101.4	65.9	42.4	48.5	1.1
	2018	6/27	7/31±1.3	51	100	94.0	63.6	39.3	47.1	1.0
精ちぐさ (赤)	2017	6/26	7/26±1.3 <sup>w</sup>	46	30	85.7	52.1	43.6	36.0	1.0
	2018	6/22	7/25±1.3	45	30	83.9	48.7	40.3	40.6	1.0

z) 肉眼による発蕾を調査対象茎(20茎)の過半数で確認した日  
y) 基準収穫期間の採花率: 7/27~8/10に採花した割合  
x) FF(フラワーフォーメーション): 図1により分類した花房型の平均値  
w) 平均±S. D.

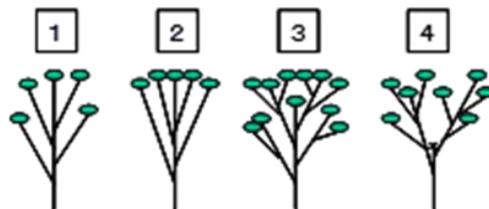


図 1 : FF(フラワーフォーメーション)

[その他]

研究課題名: 夏秋期特需対応システム導入による小ギクの国際競争力強化戦略  
予算区分: 国庫  
研究期間: 2016~2018年度  
研究担当者: 池森恵子